

日本をキリストへ 協力

10

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル日本福音クルセード気付
TEL 03-295-4414

ビジョンに忠実であつたパウロ

協議会副会長 K・マクブティ

神がパウロにビジョンを与えられました。彼は、誰もいない所に信じる人々を見ることができ、形づくられる前から健全な成長する教会を見る事ができました。神は彼に「鋭い目」、信仰の目をお与えになりました。それ故、彼は人々が見る以上に、そして人々が見えないものまでも見ることができたのです。

ところで、パウロは大きな教会で信者に尊敬されている牧師ではありませんでした。彼は実際に、コリント教会に「私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けたことがない」と言っています。彼は伝道団体のリーダーだったのです。彼は神から与えられたビジョンに忠実だったので、他の人の基礎の上に建てあげるのを求めたのではなく、新しい地を開拓しました。彼は、「死者を生かし（全く不可能なこと）、無いものを有るものようにお呼びになる（何も無い所から新しいものを創造する）」神を信頼しつつ前進しました。（ローマ四・十七）

特に、神は私たちにも、主に對して忠実であるように、与えられたビジョンに忠実であるようにと求めておられます。私たちは、僻地の、福音未伝地の国に一人でいるわけではありません。それ故に、パ

ウロが直面しなかつたような問題を抱えています。

私たちはしばしば、様々な教会に属するクリスチャンたちに呼びかけて、彼らを通してビジョンの達成を見るようにと求められています。しかし、同じビジョンに燃えなければならぬはずの人々が、よくて気乗りしなかったり、無関心だったりすることがあり、時には徹底的に敵対してくることさえあります。これは、私たちを絶望させるためではなく、不可能を可能としてくださる神に對する新たな信頼へと導くためのもう一つのハードルとなるのです。

今日、私たちはどのような問題に直面しているのでしょうか。資金の不足ですか。それとも適任者の不足ですか。無関心の壁ですか。思い出してください。パウロは、飢え、病気になる、獄に入れられ、鞭打たれ、船で遭難にあい、迫害を受け、さまざまな障害にぶつかつたにもかかわらず、与えられたビジョンに忠実だったので。

私たちもまた、障害をものともせず、与えられたビジョンに忠実でありましょう。覚えてください。日本には、未だかつて教会に足を踏み入れたことのない人々がまだ一億二千万人もいます。彼らは待っているのです。



一泊研修懇談会へのおさそい

第四回目の「伝道団体連絡協議会一泊研修懇談会」がまもなく開催されようとしています。

一九八八年十一月二四、二五日
熱海 ホテル・ニュー・アサヒ

今回のテーマは「多くの実を結ぶ」です。

私たちが伝道して実を結ぶことを期待しないとすれば、ふつうではないと思います。もちろん、いっしょに実を結ぶことを期待しないことはあったとしても、究極の目的は「結実」にあるはずです。

伝道団体と協力して伝道しようとする教会も同様です。「あの団体と一緒にやると実を結ぶ」つまりみかえりを期待しているのです。

そこで、今回のテーマとして「結実」をあげました。

講師として迎えます岩井清牧師(交渉中)を通して、教会が期待する伝道団体、伝道団体に期待することについて語っていただきます。伝道団体で奉仕している私たちには貴重な意見、批判、教会が求めていることを聞くことができるでしょう。伝道団体がやりたいこと

を教会を使ってやっている、教会被害論もないわけではありません。教会に仕えようとしていないで、教会に献金だけを訴えてきたり、集いに人を送りこんでくるようにと訴えたりしています。教会ではほとんど奉仕しないのに、伝道団体のためには一生懸命奉仕をするという人もいないわけではないようです。いろいろな伝道団体の催物に顔を出し、いつの間にか教会をわたり歩く人を作っていることもあるようです。

教会は伝道団体を用いてくれない、協力してくれないとボヤク団体もあれば、使えるような伝道団体がないと酷評する教会もあります。

とにかく、お互は主のために立てられ、奉仕に励んでいるのですから、一致したいと思えます。協力し合いたいと思えます。手を取り合って、実を結ぶ働きをしたいと思えます。

分科会においては、伝道団体相互の理解と協力の可能性をさぐる場にしてほしいと願っています。同じジャンルの団体で分科会を編成したいと思っています。もちろん、他ジャンルの団体の意見を聞きたいと思って、別の分科会に入ってくださいともかまいません。

今回は、この分科会において、各団体の奉仕者、つまりスタッフの方々のお証をうかが

いたいと思っています。このような研修会には、団体役員が出席されることが多いのですが、今回はぜひスタッフの方を連れてご参加いただきたいと思っています。

家内工業的な団体では、「役員一人を出すだけでもたいへんなのに、スタッフも一緒だったら、まったく仕事にならない」というご批判も出てきそうに思うのですが、きっとこの一泊研修懇談会はこれから長年にわたる奉仕のために大切な時になることだろうと思います。大きな犠牲をお願ひすることになりませんが、ぜひスタッフの方々をも送り込んで下さい。きっと目の開かれる時になると信じます。

教会の牧師が自分の教会のことだけを考えた第に物の見方が小さくなり、片寄ってくるように、伝道団体に奉仕している者も同様の危険性があるでしょう。

主が私たちに委ねてくださっている島は世界大なのです。今月の必要が満たされるだろうか、献金が入ってくるだろうかということだけに心をうばわれてはいけません。予算の縮小ばかりを考えてはいけません。

国際化が叫ばれている今日、日本から世界に出ていく伝道団体があってもいいはずですが、アジアの、世界の求めに伝えていける伝道団体でありたいと願わされます。海外のものを翻訳して日本に紹介するだけが伝道団体の働きではないはずですが、日本生まれの世界宣教団体がそろそろ出てきてもいいのではないのでしょうか。

第八回常任役員会報告

一九八八年九月二日 O S C C 理事長室にて役員会が開かれ、左記のことが協議されました。

◎ 第二回伝道団体フェスティバルについて

二千名以上の参加者が会場の O S C C につめかけ、展示、催物ともに盛況でした。伝道協の目的である相互理解、相互協力、教会のより深い理解を得るなどがこのフェスティバルを通していくばくかでも果たされたことは幸いでした。スタンブ・ラレーが効をそうし、多くの方々が各会場をくまなく回ってくださったし、雰囲気もグッと盛上げました。五七万円を越える残金を与えられ、前回の赤字を解消することができました。

次回の開催については O S C C ビルの改築が予定されていますので、九〇年に O S C C ビルを使ってということとは不可能です。さらに協議を重ねていくことになりました。

◎ 第四回一泊研修懇談会

来たる十一月二四、二五日 熱海のホテル・ニュー・アサヒで開催することが決まりました。

日程と役割分担をだいたい決定し、細かなつめは大竹委員と姫井委員で相談して

◎

決め、折衝して引受けていただくことにしました。ハイビーエーのキャンプにおいて高校生の死亡事故が起こったことについて大竹主事より説明があり、ともにご遺族とハイビーエーのために祈りました。

亡くなられたのは、奥田幸嗣君で、新生教会会員で、三代目のクリスチャン。キャンプ場の近くにある千葉県九十九里ヶ浜で事故が起こりました。監視体制は十分に敷かれ、七名の監視員が陸と海の中で監視をしていました。沖にいた二、三人のこどもが波にバランスを崩し、助けを求めたので、監視員の注意がそちらにむけられていた間に浅瀬にいた奥田君が見えなくなったのに気づかなかったのです。関係諸管轄の応援をいただいで捜査の結果、翌日早朝、遺体が発見されました。

一九五二年にハイビーエーの働きが始められました。今回のような事故は初めてのこと。楽しそうに海岸で人間ピラミッドをつくった時の写真が彼の最後のものとなりました。

第四回定期総会報告

一九八八年六月一六日、O S C C 旧館一階一三号室において定期総会が開催されまし

た。出席団体は二九、委任状提出団体八、合計三七団体の出席のもと総会が開かれました。第一部の礼拝において本田会長はマルコによる福音書一六章から

- ① 広いビジョンをもとう。
 - ② 魂をとらえるアイデアをもとう。
 - ③ お金があるからするのではない。信仰をもとう。
- とメッセージをとりつがれました。

第二部 議事会は岸田先生が議長を務められ、議事が進められました。昨年度の活動報告と会計報告がなされ、その承認の後、今年度の事業計画案と予算案が協議され、承認を得ました。

今年度の事業計画は

- ① 一泊研修懇談会を十一月二四、二五日に開催する。
- ② 新年情報交換会を来年一月、または二月に行う。
- ③ 第二回伝道協フェスティバルを六月一六日から一八日まで O S C C にて開催する。
- ④ 今年度をファミリー伝道年とする。
- ⑤ 機関紙「協力」を年三回発行する。

今年も伝道団体が一致協力して、全日本の宣教のために献身的に取組んでいこうと祈り合って会合を閉じました。総会の閉会とともに第二回フェスティバルが開幕いたしました。

一泊研修懇談会案内

四回目を迎える恒例の一泊研修懇談会は来たる十一月二四、二五日に開かれます。今回は会場を熱海に移してみました。今回は熱海市東海岸町七一四十ホテル ニュー・アサヒ



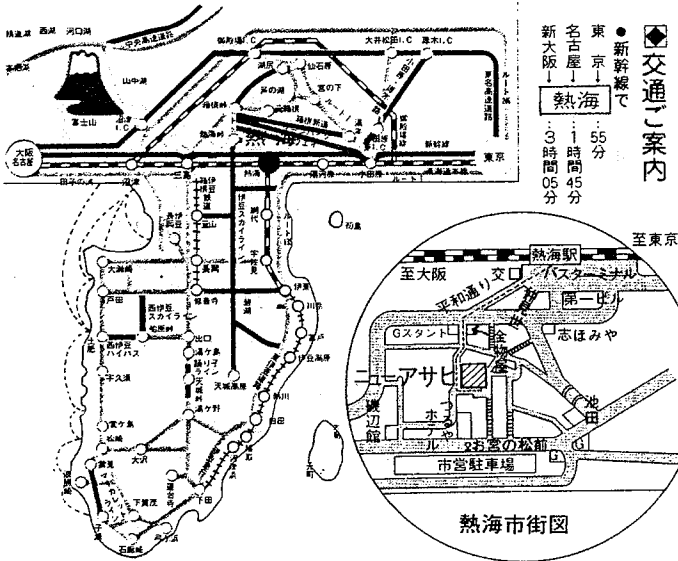
☎〇五五七一一六一六五
車で来られる方は

東名厚木IC↓小田原厚木道路(一時間)
東名御殿場IC↓乙女道路↓十国峠(一時間)
東名沼津IC↓熱函道路(五〇分)

受付は二四日 午後一時です。ゆっくり温泉を楽しんでいただき、開会礼拝夕食の後集会を始めます。十二月のクリスマス諸活動に入る前にこのようにゆったりとした時があたえられることは本当に幸いです。

交通案内

●新幹線で
東京→55分
名古屋→1時間45分
新大阪→3時間05分



来年の総会を迎える六月まで、今年度の主題であるファミリー伝道に打込まなければならぬと思います。教会ではなかなか生み出せていない具体的なアイデアや企画を専門的に取組んでいる超教派伝道団体が協力して生み出していかなければならないのではないのでしょうか。この懇談会の中から、毎年すばらしい企画が生れています。ぜひ期待してご参集ください。あなたのアイデア、あなたのひらめき、私たちの祈りから生み出されてくる企画に主の祝福を祈ります。
会費は一人一万二千元です。

伝道団体連絡協議会役員名

- 顧問 島村亀鶴 森山 諭 岡村又男
- 会長 本田弘慈
- 副会長 羽鳥 明 登 K・マクビティ
- 役員 堀内 顕 鈴木留蔵 兼松 正
- 久保英夫 荒牧嘉文 滝元 明
- 大竹一行 村上宣道 菊池良市 岸田 馨
- 多胡元喜 市村和夫 姫井雅夫 渡辺佐次郎
- 浅見鶴藏 岩崎喜太男 P・ホーン
- A・ホーランド
- 監査役 鈴木留蔵 兼松 正

- 発行日 一九八八年十月一日
- 発行者 本 田 弘 慈
- 編集者 姫 井 雅 夫